

核構造データ・サブワーキング・グループ 会合議事録

日 時 昭和57年 4月22日 (木) 9:00~17:00

23日 (金) 9:00~17:00

場 所 原研東海研究所 研究2棟 335号室

出席者 宮野, 大矢 (新潟大), 喜多尾 (放医研), 神戸 (東工大), 橋爪,
天道 (理研), 松本, 大島, 田村 (原研)

議 題

1. 昭和56年度の活動

昭和52年度から開始したA-chain評価はほぼ半年遅れで進行している。昭和57年度中にはA=118~129のすべてのA-chainが一巡し、第2ラウンドへ入れる見込みである。この間に評価基準の設定、評価プログラムの開発がほぼ完了した。またENSDF, NSRFの利用では崩壊熱の評価、安全性の検討のために活用されはじめた。

昭和56年度にはA=118, 124, 128, 129の評価が進んだ。すでにA=128を投稿し、A=124, 129の最終的な検討を行っている。NSRFの検索プログラム(INFORM)は試用を終え、実用に供している。ENSDFから種々のデータ項目を検索するためのプログラム(RETRIEVE)を開発中である。

2. A-chain評価

(a) A=118では、崩壊と反応のデータ全般についてデータの収集が終り、Adopted levels, gammasも作成した。今後つぎの問題を検討する。

(i) スピン・パリティおよびそのコメント

(ii) μ , Qモーメント

(iii) Q_β , Q_{EC}

(iv) 数値のNormalization, NB, BR, NR.

(b) A=122では、Sn, Teを除きデータの収集と編集が終わり、Adopted levels, gammasを作成中である。今後Sn, Teの編集を進める。

(c) A=122では文献のリストを作成し、コピーなどを作った。データ収集と評価・編集はこれから始める。

3. Advisory Group Meeting on NSDD

1980年のViennaでの会合には日本から出席者がなかったが、1982年5月11～14日のUtrechtの会合には松本委員が出席する予定である。これに備えてつぎの討論を行った。

(a) 日本の質量分担

現状どおり $A = 118 \sim 129$ とする。

(b) Referee

日本でもそのうちに引受けるのが妥当である。

(c) ENSDFの評価の改訂周期

NDSの改訂は現行の4年でよいが、重要なデータについてはもっと短期の改訂が望ましい。

(d) 上記(c)に関連してworking fileの活用が望ましい。

(e) 評価基準

現在の評価基準には、明確でない点があるので、できるだけ細かく決定することが望ましい。

以 上